広報ただみ

2013 1月号
No. 512
平成25年1月10日

今月の表紙

只見スキー場
お正月歓迎イベント

毎年恒例の歓迎イベントが元日と2日に只見スキー場で行われ、大勢のスキーヤーやスノーボーダーが参加した。初日は雪中宝ひろい、二日目は親子そり乗り大会やビンゴ大会などが催され、ゲレンデに歓声が響いた。両日行われた「バナナボート遊覧」は大人気で、スリルを体験しようと受付には列ができていた。

只見町長・議会議長
年頭のごあいさつ………… 2～3
只見町定住等促進住宅が完成…………………………… 4～5
目黒吉久町長　初登庁　他………………………………… 6～7
町の話題………………………………………………………… 8～9

年頭のごあいさつ

New Year's greetings

活力ある地域社会の再生に取り組みます

只見町長　目黒　吉久

初春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年十一月の町長選挙におきまして町民の皆様の負託を受け、二期目の町政を担わせていただくこととなりました。

町民とともにつくる町づくりを基本に、町勢進展のため諸施策に取り組んでまいる所存でありますので、皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故からの復興元年として、災害復旧や放射線対策等への取組が国をあげて行われてまいりましたが、デフレ、円高による日本経済の先行きの見えない不況、被災地の復興も遅々として進まない中、再び政権交代の選挙結果をもたらし、第二次安倍内閣が発足し、「危機突破内閣」として、震災からの復興と経済再生に向け取り組んでいく考えが示されたところであります。

国外においてもアメリカや中国、韓国などにおいて政権の選択が行われた節目の年でもありました。

さて当町では、東日本大震災以前から少子高齢化の進展に伴い人口が減少し、地域の活力が低下する中、大震災の影響、さらには新潟・福島豪雨によりかつてない甚大な被害を受け、災害復旧に全力で取り組むことは勿論ですが、住民の安全・安心の確保と共に、こうした厳しい状況の中にあっても地域の活力を高めていくことが求められております。

昨年は、災害復旧事業を最優先に取り組んでまいりましたが、林道災害復旧事業を除き、概ね、平成二十五年度には完了となる見通しとなり、福島県において黒谷川、叶津川の河川改修も着手され、只見川圏域の河川整備計画も次年度には策定される予定であり、引き続き、関係機関と連携を図りながら、災害復旧・復興の早期実現と防災対策に取り組み、安全・安心の確保に努めてまいります。併せてJR只見線の早期全線復旧に向け、事業者や国等へ強く働きかけてまいります。

また、こうした取組と同時に、只見町の将来にわたる存続と自信の回復を目指し、活力ある地域社会の再生に取り組んでまいる所存であります。

そのため、若者等の定住、移住につながるよう、農業の一層の振興と併せ、観光産業とも結びつく農林水産物の生産・加工・販売体制の確立に取り組むと共に、雇用拡大に向け町内での企業活動については従来にも増して支援してまいりますし、昨年は定住等促進住宅を一棟、整備したところでありますが、引き続きこうした住宅政策にも取り組んでまいります。

地域交流や防災拠点としての機能も有する新庁舎等の整備につきましては、町民の皆様の声を聴かせていただきながら設計に取り組んでいくとともに、保養センターの改修も次年度には竣工する見通しであります。

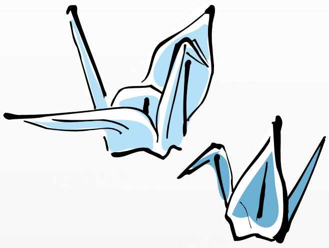
また、高齢者の皆さんが安心して暮らせるよう、現行の医師体制を堅持するとともに、障がい者のグループホーム設置への支援や小規模特別養護老人ホームを整備するなど、保健・福祉・介護の充実に努めてまいります。

さらに、少子化の進む中、真の人間力形成と学力向上対策は最重要課題であるとともに只見高校の存続と振興対策はもとより、文化・スポーツ団体等への活動支援にも力をいれてゆきたいと考えております。

私たちは今般の大災害を経験し、経済性優位の価値観から自然と暮らす生活の価値を改めて問われているのではないでしょうか。町では、「地域の自然と文化を守りながら地域社会の発展を目指す」ユネスコエコパークの登録を目指し、ユネスコへの登録申請を行う予定であります。このことは、ユネスコにより世界的に評価され、町の誇りとなるばかりではなく、「ふくしま」から世界に向けてその価値を示していくことに繋がるものであると考えております。

さまざまな課題の解決には町議会並びに町民の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、職員一丸となって取り組むことは勿論のこと、それぞれの立場でのお力添えを賜りながら、みんなの力が発揮できる、活力ある町づくりを目指してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに平成二十五年が皆様にとりまして素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。



町民に開かれた議会を目指して

只見町議会議長　齋藤　邦夫

新年明けましておめでとうございます。

只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には輝かしい初春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと国内外の政治・経済情勢は、正に激動と変革の年でありました。

まず、国外に目を向けると、アメリカではオバマ大統領の再選、中国では胡錦濤から習近平体制へ、韓国では初の女性大統領が誕生いたします。また、国政では昨年末の総選挙で、デフレ脱却、円高是正を掲げる自由民主党が圧勝し、三年余り続いた民主党政権に替わり、自民・公明連立政権による安倍内閣が誕生しました。新体制の中では、環太平洋戦略的連携協定（ＴＰＰ）への加入、尖閣諸島、竹島の領有権問題など厳しい外交課題があります。

本町においては、町政の主宰者である町長選挙が実施され、二期目の目黒町政がスタートしました。山積する地域課題に敏腕を期待するところであります。また、町議会議員選挙では新人三名を含む十二名の議員が選出され議会活動を担っております。

さて、昨年は、東日本大震災と福島原発事故からの復旧、復興を願い、新潟・福島豪雨災害復興元年と位置づけると共に、風評被害対策に取り組んで参りました。公共災害や農地・農業用施設災害については、概ね、平成二十五年度で復旧の見通しとなりましたが、林道災害復旧が大幅に遅れております。

議会は、豪雨災害の原因を究明するため、「災害対策特別委員会」を設置して調査活動を行って参りました。一方、福島県は、只見川の災害復旧を確かなものにするため、只見川流域豪雨災害復興基金を設置して有効活用を検討されております。

また、風評被害については、未だ払しょくされず、その対策が求められております。

明るいニュースとしては、国道二八九号八十里越県境トンネルの貫通により「八十里越子どもサミット」の開催や「八十里越道路暫定活用検討懇談会」の設立など、町民の夢と希望が現実味を帯びて参りました。また、昨年十月には、ＪＲ只見線只見～大白川間が復旧いたしました。今後は、只見～川口間の早期開通の必要性を関係機関に対して強力に訴えて参ります。

一方、福祉対策の一環として、只見地区に民間による小規模多機能居宅介護施設がオープンしました。また、町民待望の只見保養センターの改修が決定し、さらに、身障者のグループホームの設置、小規模特別養護老人ホームの整備が具体化の見通しであります。

今後は、災害の復旧から復興を図り、将来の町づくりのため、高齢者を支える若者が定住できる魅力の持てる地域社会を実現することが、最重要課題として早急に取り組まなければならないと考えます。従って、少子高齢化に起因する町政の課題を整理し、「何時・何処で・誰が・何を」するか、主要施策と行動計画を町当局に求め、議会も積極的に政策提案を行って参りたいと考えます。

議会は二元代表制の下、町民を代表する機関として、町長など執行機関を監視すると共に、政策を提言して、互いに善政を競いながら町政の発展に努めて参りたいと考えます。また、只見町議会が全国に先駆けて導入した「通年議会制度」は、先般の地方自治法改正により制度化された処であります。さらに、昨年議会基本条例を制定し、町民の付託に応え、開かれた議会を目指し、議会ルールを定めて議会報告会の実施、会議の公開、議会だよりの充実などに努めて参りました。

議会は、当局とともに町民の意思を尊重し、只見町の更なる発展のため、誠心誠意努力をして参りますので、町民各位のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、新しい年が皆様にとりまして、素晴らしい年になりますよう祈念して年頭の挨拶といたします。

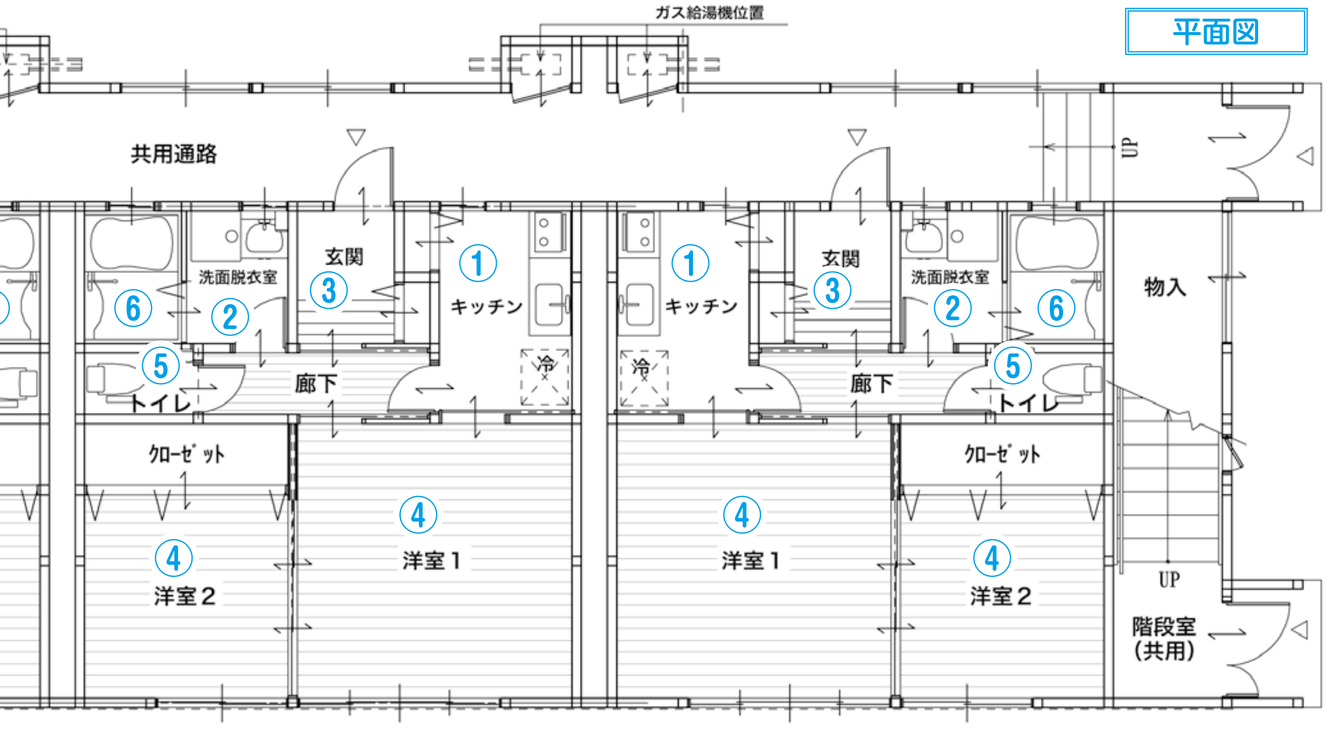
見町に住みたい方をバックアップ
只見町定住等促進住宅が完成

③玄関（収納スペース）

②洗面脱衣室

①キッチン

平面図



室内の造りを平面図と写真でご紹介します。

⑤トイレ（洋式）

④洋室１・２

町では、新規就農や町外からの移住などによる定住人口の拡大を政策に掲げています。これまでに町外などから新たに只見町に就業した方の住宅としては、主に町営住宅を提供していましたが、空きがない状況や収入要件で入居できないケースがあり、皆様のご要望になかなかお応えできない場合もありました。これらの課題に対応するため、只見町に定住を希望される方々へ、一時的に住宅を提供することなどを目的に「只見町定住等促進住宅」を設置しました。

この定住等促進住宅に入居されている間に、安定して定住できる新たな住宅を確保いただき、町内に居住（永住）していただくことをねらいとし、定住人口の拡大を目指すものです。

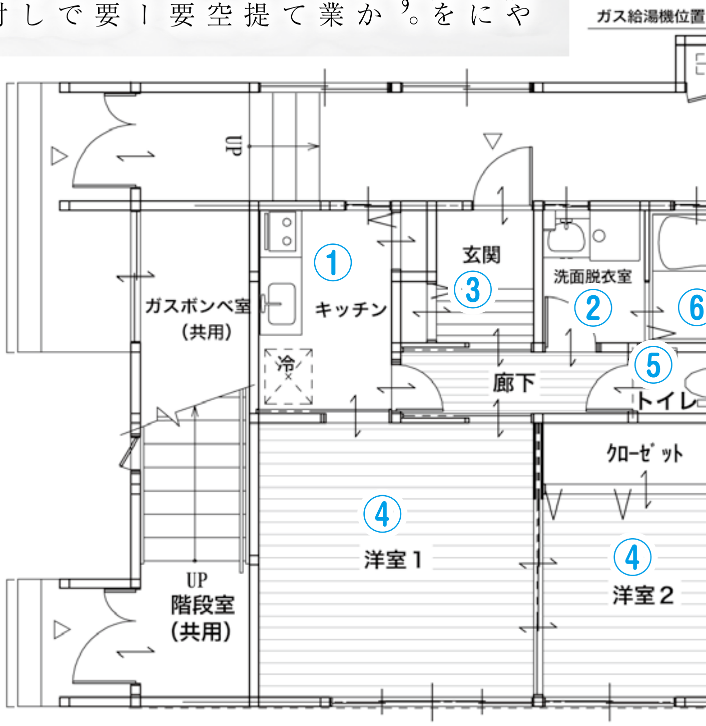
このたび、定住等促進住宅が完成しましたのでご紹介します。なお、入居の申し込み手続きなどは、後日改めてお知らせします。

□住 宅 名：定住等促進住宅（新町住宅）
□所 在 地：只見町大字只見字新町2170－1
□造　　り：木造２階建て
□間 取 り：２K（２部屋・キッチン）
□床面積等：延床面積367.50㎡（共用通路含む）
　　　　　　１戸当たり　40.57㎡

特　徴

○豪雪地帯である只見町の気候を考慮し、屋根勾配をきつくするなど雪に強い造りとしました。
○只見町内では珍しい１階と２階にそれぞれ３戸の計６戸の造りのため、上下、左右の騒音にも配慮した構造となっています。
○厚い断熱材や樹脂サッシ等の採用により、断熱性能を高めた住宅としました。
○共用通路を設けて直接住宅内に雨・風・雪が入る事が無いように配慮、また、１階と２階に別々の入り口を山側と川側に設けて入居者の出入りを容易にしました。
○短期の入居にあわせ、食器棚、げた箱などを造り付けとしました。
○人数に応じて使いやすい間取りとし、クローゼットなども完備しました。
○湿気や熱ロス対策用の24時間換気設備を設置しました。
○火災等の予防や健康志向に配慮し、建物内（各部屋含む）を全て禁煙としました。

【問い合わせ】環境整備課　☎８２－５２７０



⑥ユニットバス

誇りと自信を取り戻す復興に取り組む
目黒吉久町長　初登庁

任期満了に伴う只見町長選挙で再選された「目黒吉久氏（60）」が、12月17日に初登庁されました。目黒町長は役場本庁の正面玄関で大勢の職員に拍手で出迎えられ、花束を笑顔で受け取られました。

その後の就任式で目黒町長は「昨年は原発事故や新潟・福島豪雨により町は大変な被害を受け、町民の誇りが傷つけられた。町民の心の中にできた亀裂をつなぎ、誇りと自信を取り戻すための心の復興にも全力で取り組んでいく。足もとからできることを一つ一つ積み重ね仕事をしていく。職員としての自負を持ち職務に取り組んでほしい」と訓示しました。

目黒町長の2期目となる任期は、平成24年12月16日から平成28年12月15日までです。

▲職員から花束を受け取る目黒町長（右）

役場庁舎建設にかかる技術提案書を一般公開

町では12月14日に役場庁舎建設設計にかかる技術提案書を一般に公開しました。

今回公開した提案書は、第一次審査を通過した第二次審査会用の提案書で、18者の公開となりました。

公開会場の役場本庁には町民の方々が訪れ、パネル展示された提案書を一つ一つ確認されたあと、感想や意見などをアンケートに記入していました。アンケートで集約された町民の意見なども考慮され、12月中に、第二次審査会が行われ、第三次審査会で審査される5者が決定しました。第三次審査会は住民公開により、2月17日に季の郷湯ら里で行われ、最優秀者1名と優秀者1名が決定する予定です。

▲アンケートに記入する町民

只見町青少年健全育成町民会議が表彰

只見町青少年健全育成町民会議が福島県青少年育成県民会議から11月21日に表彰されました。

町青少年健全育成町民会議は、青少年が地域社会の一員として地域との関わりを深め、活動することを奨励する町独自の事業を展開し、毎年多くの団体が積極的に活用、様々な活動を行なっています。また、3つの専門部会により事業を行い、家庭と地域、学校が連携しながら、心豊かな青少年を育成するための環境づくりにも積極的に取り組んでいます。このような地域全体で取り組んでいる模範的な活動が評価され表彰されたものです。

▲表彰状を手にする齋藤教育長

町職員の新規採用・退職

○新規採用町職員（12月1日付）

産業振興課　農林班　長水（ながみず）　崇（たかし）（派遣職員）

※長水さんは豪雨災害に伴う復旧作業の応援職員で北海道宗谷総合振興局産業振興部林務課から派遣されました。

○退職町職員（11月30日付）

産業振興課　農林班　市川　暁（派遣職員）

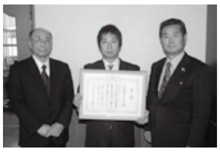
※市川さんには豪雨災害に伴う復旧作業の応援職員として８月から４ヵ月間お世話になりました。ありがとうございました。

福島県教職員研究論文表彰
只見小学校が入選・只見中学校が奨励賞

福島県教育委員会が主催する平成24年度福島県教職員研究論文表彰事業で、只見小学校（髙橋吉博校長）が入選、只見中学校（吉津政一校長）が奨励賞を受賞されました。

この事業は、特色ある授業や学習指導を展開しながら、より良い教育の向上に努めている学校の教育研究に対し表彰するもので、只見小学校は「自ら学び、ともに考えを深め合う児童の育成～個の学びを保障した学び合いを通して～」と題し算数の学力向上について研究され、また、只見中学校は「一人ひとりが主体的に学び、確かな学力を身につける指導の工夫～基礎・基本の活用、活動を通して～」と題し学習指導の向上について研究されたそれぞれの活動や取り組みについて表彰されたものです。

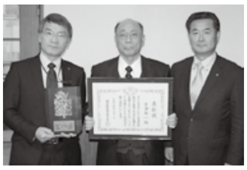
▲入選の只見小


▲奨励賞の只見中

吉津政一　只見中学校校長
学校教育功労賞受賞

吉津政一只見中学校校長が福島県教育委員会から11月1日に表彰され、学校教育功労賞を受賞されました。

吉津校長は、平成10年度から全5校で15年間にわたり校長職を務められ、学校運営に全力で取り組まれるとともに、校長会の要職を歴任、地域教育の振興に努められました。平成24年度には南会津郡小中学校長協議会の会長に就任され校長のリーダーとして尽力されています。このように、県内学校教育の充実、進展に多大な貢献をされていることが評価され受賞されました。


▲表彰状を手にする吉津校長（中央）

只見町ブナセンター

ブナセンター講座
ツル細工の種類と伝統

12月1日に、ブナと川のミュージアムで日本女子大学櫻楓家庭工芸研究所の谷川栄子氏を講師に、ブナセンター講座「ツル細工の種類と伝統」が開かれ、29名が参加しました。

▲ツル細工の話しをする谷川氏

▽縄文時代からの　カゴ編みの歴史

谷川氏は、縄文時代の遺跡からも、テイカズラなどのツル植物で編まれた美しいカゴが出土しており、これらのカゴは、現代とほとんど同じ技術で編まれていて、縄文時代からカゴ編みの技法が伝承されていることについて話されました。

▽海外のカゴ編みの事例紹介

カゴ編みの紹介の中で、アメリカでは、国内全土から作品が集まるカゴの展示会が行われていることの説明があり、そこではツルだけでなく、材料として樹皮や木を割いて作るカゴなども展示されているとの話がありました。世界各地でカゴ編み細工が行われているとのことです。

▽最後に…

参加者からは、クワの樹皮やガマの葉の利用方法、アケビのツルの干し方など、ツルを編んでいる方からの質問がありました。また、ガマ、ヒロロ、カンスゲなどの草類は材料として採取しても毎年再生するため、自然にやさしいとのことでした。

今回の講座には、カゴ編みの魅力にひかれる方々が県外からも参加されました。皆さん、とても勉強になったと満足そうな様子でした。

虫歯のない子
12月18日・3歳児健診

梁取（やなとり）　暖（だん）くん（小林）

齋藤（さいとう）　全（ぜん）くん（只見）

増田（ますだ）　瑞希（みずき）さん（小川）

本名（ほんな）　大成（たいせい）くん（福井）

立野（たつの）　陽聖（ひさと）くん（只見）

吉津（きつ）　風花（ふうか）さん（長浜）

菅家（かんけ）　旭登（あさと）くん（黒谷）

サンタさんに会えたよ！ クリスマス会

ただみこども教室（12月17日）

めいわこども教室（12月18日）

あさひこども教室（12月20日）

正 しめ飾りつくり講座 月飾りを自分の手で作ろう

只見地区センターで、12月9日に「しめ飾りつくり講座」が開かれ、12名が参加しました。この講座は、只見町の素晴らしい人材や材料に学び地域を再発見しようと年間を通して行われている事業の一環で、今回は年末歳時記講座として行われました。春に地元で採取し乾燥させておいた「イワシバ」を使い、参加者は左縒りといわれる編み方で丁寧に時間をかけ思い思いに正月飾りを作り上げ、完成した飾りを手に笑顔を見せていました。

▲できあがった正月飾りを手にする参加者

只 ブナセンター「カゴ編み教室」 見の伝統技術を学び楽しく体験

▲できあがったカゴや材料を手に笑顔の参加者

12月2日に、ブナと川のミュージアムで「カゴ編み教室」が開かれ、町内外から19名が参加しました。講師は、昨年発足した「またたび屋」の方々が担当、籐（トウ）をはじめアケビやブドウのツル、クルミの樹皮などを使いカゴを編む班と、マタタビを割いて材料を作る班に分かれ作業を行いました。参加者は、アドバイスを受けながら真剣に取り組み、終了後には「楽しかったので機会があればまた参加したい」と貴重な体験をした感想を話していました。

民生児童委員会ボランティア活動
仮設住宅の入居者に温かなプレゼント

12月18日に、只見町民生児童委員会（飯塚孝子会長）の方々10名が、一昨年の新潟・福島豪雨で被災し仮設住宅に入居されている6名（4世帯）の皆さんに、同委員の方がつくられた手打ちそばと、おつゆや、お惣菜などをお昼に配りました。その中には「ささやかですが、手打ちそばを食べていただき、心温まってください」というメッセージも入っていて、それを読まれた入居者は「涙が出る思いです。皆さんに感謝します」と笑みを浮かべ、温かい心のこもったプレゼントを受け取っていました。

▲入居者の渡部孝さん（後列中央）と民生児童委員の皆さん

只見スキー場オープン式
シーズン中の安全と細やかなサービス誓う

▲安全な運営を願いテープカットする目黒町長（左から３人目）ら関係者

只見スキー場のオープン式が12月21日に只見スキー場のロッジで行われ、関係者18名が出席しました。(株)会津ただみ振興公社代表取締役の目黒町長が「皆さんに喜ばれるようスタッフ一丸となり頑張ります」とあいさつし、目黒長一郎町体育協会長が祝辞を述べました。その後、安全を祈願し齋藤邦夫町議会議長の音頭で献杯が行われ、目黒町長ら関係者のテープカットで、オープンしました。この日の積雪は140センチで22日からは全面滑走が可能となりました。皆さんご利用ください。

熊倉地区そば打ち教室
地元産そば粉で打ち方学び試食会

熊倉そば打ち愛好会（目黒義行会長）では、12月8日に地区集会所で「そば打ち教室」を開き、地元の方が参加しました。午前中は目黒会長の指導により、地元産のそば粉を使い、実際に体験しながら伝統食のそばを上手に打つ方法を学ぶ講習会が行われ、夕方からは目黒会長はじめ、講習会に参加された方々が打ったそばの試食会も行われました。この教室は今回で3回目、恒例の地区行事として定着し地元の皆さんの触れ合いの場となっています。

▲目黒義行会長（左）の指導を受ける参加者

いきいき・ふれあい教室
料理で高血圧予防、体操で肥満予防

▲バランス体操に挑戦する参加者

黒谷入地区で60歳程度の方を対象に12月14日、いきいき・ふれあい教室が開かれ15名が参加しました。午前中は町食生活改善推進員の方を講師に高血圧予防になる減塩料理のオムレツなどを作り試食したり、町保健福祉課職員の生活習慣病などに関する講義を受けました。午後も引き続き講義を受けながら、肥満予防や身体活動を活発にすることを目的としたバランス体操を行いました。参加者は「体を動かすと気持ちがいい。温まる」などと満足そうに話しました。

アンナ先生の Life in JAPAN（ライフィンジャパン）

Vol.24

■ Anna（アンナ）・George（ジョージ）
・1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
・2010年8月から只見町英語指導助手。
・小学校と中学校で語学の指導を行います。

12月の只見にこんなに雪が積もるなんて信じられません。突然の大雪にとても驚きました。イギリスの12月も多少雪は降りますが、只見ほどではありません。でも、この冬もスノーボードができるのが楽しみです。

この時期、クリスマスが本当に待ち遠しいです。現在、小学校でクリスマスの授業を楽しく行っています。授業の中ではクリスマスカードや飾り付けを作っています。イギリスの小学校でも私が今やっているようなことを行っています。私の両親は私が小学校時代に飾り付けたクリスマスツリーを今も飾っています。先生方もクリスマスプレゼントとして生徒たちにかわいらしい飾りをくださったりもします。そんなわけで、イギリスの家庭ではクリスマスの飾りをすてきな思い出と共に大切に保管しています。

今年も一年を振り返る時期になってきましたね。２０１２年もたくさんのことがありました。今年は特に私の家族にとって特別な一年になりました。私の妹は彼女が作ったテレビゲームによって、国から特別賞が贈られました。また、母と私の妹が日本に来ることもできましたし、それに何より、私自身が婚約しました。何かとやるべきことが目の前に押し寄せてきていますが、２０１３年も本当に楽しみです。

みなさんのMerry ChristmasとHappy new yearをお祈りいたします。

＊この文書は12月中旬に作成されたものです。

（訳・只見中・平野）

広報ただみ診療所

朝日診療所　所長　星野　弘尊

『診療所の現状と住民生活』

今年は12月に記録的な積雪があり、びっくりしました。除雪が大変なシーズンがやってきましたが、皆さん、無理のないようにしてください。

現在、診療所では看護師を募集しています。なぜなら、看護師が足りないからです。全国的に看護師は足りない状態ですが、診療所でも同様です。このような状態のため、住民の方々にも診療所を利用するにあたり協力していただくこともあります。例えば、ご家族などが入院される場合、一人で安全にトイレ歩行ができない状態や夜間不穏となってしまうなどの患者さんには付き添いをお願いすることがあります。特に夜間は夜勤者が２人になることから、十分に注意をして勤務をしていますが、目が行き届かなくなることもあります。転倒、骨折などの事故を防ぐためにもよろしくお願いします。

医師だけでは診療所は成り立ちません。多くの医療関係者の協力の下に只見町の医療が支えられていることを改めて認識していただき、町民の皆さんも自分たちの町の医療を守るべく、考えて行動していただければと思います。医療なくして住民生活は成り立たないことを強調しておきます。

これからの只見町を考えると、高齢者が増加するのは明らかです。医療、介護、福祉の充実は必要不可欠なものと思います。この地域に住む住民として、自分で何ができるのか考えてみるのも、これからの只見町をよりよくするためには大切なことではないでしょうか。

町史 とっておきの話 222

共有林はムラの財産~只見町の共有林に学ぶ~⑤

東京大学社会科学研究所　朝岡　誠

観光ワラビ園で
共有資源を活用する

共有林ルールをパソコン上で検討する

只見町のそれぞれの集落では、共有林にある資源をみんなでうまく使っていくために、みんなで独自にルールを作り、そのルールに従って入会地を管理しています。

私たちの研究グループはこれらのルールが導入された理由に興味があります。そこで各集落の区長さんや共用林野組合長さんに共有林の利用ルールについてお伺いしています。組合長さんたちの話によると、共有林のルールはみんなで話し合って少しずつ変えているけれど、ときどき他の集落の管理ルールを参考に大きく変えてみたらどうかという声があり、対応に困っているとのことでした。

確かによそで成功している集落のルールを真似るのは一つの方法ですが、今まで守ってきたルールを変えるというのは大きなリスクがあるため、慎重に考える必要があります。今回ご紹介するシミュレーション研究はこの問題を解決するのに役立つ方法だと思います。

前号までの連載で共有林に関する研究は世界的に注目されるようになったことを紹介しました。注目される理由には、共有地の管理に関する一つ一つの事例をシミュレーション研究などによって他の共有地の管理にも適用できるようになったことが挙げられます。

皆さんは「シミュレーション」という言葉から何を連想するでしょうか。多くの方はテレビゲームを連想するかと思います。シミュレーションゲームの場合は、いろいろなパラメータを使って戦国時代や乗り物などを再現し、その場の人になりきることを目的にしています。一方、研究のシミュレーションの目的は、ある習慣によって人々がどのように動き、その結果、どうなるかを予測することです。

ノーベル経済学賞を受賞したオストロム氏の共同研究者のCastillo氏とSaysel氏は、カリブ海にある島で次のようなことを発見しました。共有地を使ってカニを採っている集落ではルールによってしっかり管理されているのに対して、漁をしている集落ではルールがあまり守られないのです。二人は二つの集落の生活をコンピューター上で再現し、話し合いをする習慣があるかどうかによってルールが守られるかが決まることを発見したのです。

この研究を皮切りに現実のデータを使って今のルールが導入された理由を明らかにするといった学問的な研究や、観光地化で外からの人が増えた場合、ルールを変えたらどうなるのかを予測し、共有林の管理者にとって役立つような研究が行われています。

シミュレーション研究は具体的には次のように行います。まず、コンピューター上に仮想社会を作成し、仮想社会上の法則を設定します。たとえば、ある年に山菜を採り過ぎると次の年には共有林の山菜が減少するとか、前の年よりも山菜が採れなくなったら自分の採る量を変えてみるなどです。次に仮想社会上にいろいろな人を配置します。この社会の中にはみんなで決めたルールを守って、ルール違反をする人がいたら注意をする人もいれば、自己中心的な人、体が弱って山に行きづらい人、元気だけど山のことをよく知らない子ども、そして町外から観光目的でやって来る人や山の資源目当てでやって来るマナーの悪い人も配置します。最後に山の状態、危険だけどゼンマイがたくさん採れる、安全でキノコが採れるなどの状況も設定します。後は仮想社会の人々にコンピューターの中で生活してもらい、ルールを作ってもらいます。たとえば、山が険しい集落では体が弱い人優先のルールができる、なだらかな山で町外から人が来る集落では入山料を徴収できるなどということです。そしてこれらのルールが他の条件でもうまく適用できるかどうかを分析します。現在、皆さまから伺ったお話をもとにコンピューター上で共有林管理の状況を再現し、ユネスコエコパークの指定などで町外からたくさんの人が来るようになった場合などを想定した将来予測を行っています。この研究を通じて、これからの共有林利用ルールを町民の皆さんと一緒に考えていけたら幸いです。

町民文芸

只見短歌会

十一月詠草　大塚栄一　指導

山の栗豊かに実りしこの秋は熊も喜び食みてをらむか　小倉キミ子

列車より窓越しに見る晩秋の駅に髪揺れ女佇む　関谷登美子

霧晴れし畑に藁塚積み終へて主は明るく言葉かけゆく　古川　英子

過疎の地の静かな祭りに門付けの神楽の太鼓の音が聞こゆる　渡部ゆき子

来年も花見る楽しみ思ひつつ庭のダリアの球根掘りぬ　馬場　八智

丈に合ふ細木集めるに骨折りて石南花の多き蕾を囲ふ　目黒　富子

忘れゐし水道水を止めくれて女医の向けたる笑顔美し　五十嵐夏美

ゆとりなく子らを育てて来し我も幼き孫は叱ることなし　渡部ヨリ子

数千の鉢植ゑ未だ店員ら囲はぬうちに早も雪降る　新国　洋子

（出詠順）

只見俳句会

十二月例会　目黒十一　指導

洋子
初雪や新聞コトリと配られて
雪祭花火明滅する夜空

敦子
白鳥の姿も見えず只見川
朝時雨愛車手放す日となりぬ

礼
漬物樽増ゆるや納屋の冬めける
お知らせに耳傾ける雪情報

一灯
浜の子に元気を出せと木の実独楽
南瓜煮る香りひろがる冬至かな

又壱歩
綻びは手縫いの針目冬浅し
浅草岳頂上に雪神迎う

邦男
吹雪く日のノックの音や人声も
佇める地蔵菩薩の肩に雪

恒夫
海のもの釣られて買いし師走かな
爺婆の守りきし村初日さす

信
大根引き小雨にぬれて冬支度
分校に集いて秋の演奏会

吉児
老兵の夜の白みけり河豚汁
枯枝に毛並黄として貂睦む

隆堂
只見湖の刃金光や冬ざるる
只見湖の句碑に降り継ぐ萩の雨

邦夫
かさこそと落葉引きずる野良ねずみ
あでやかにダムに映りし粧う山

リウコ
生涯を峡に生き来て冬紅葉
冬の菊小暗き部屋に安堵せり

笑羊
白鳥のふるさと誇る足輪かな
水鳥や橋の工事の命綱

都
ふところの隅々までも秋の雨
とろろいも不ぞろい有りて陽を浴びる

一穂
明日には霜を降ろすか銀河系
落葉して山の神社の現われり

康女
手の平につららの雫うけてみる

Information 今月のお知らせ

募集 RECRUITMENT

平成25年度 南会津地方環境衛生組合職員採用候補者試験

南会津地方環境衛生組合職員（高校卒程度）採用候補者試験を次により行います。

●職種・採用予定人員

試験職種：技能労務職

採用予定人員：若干名

●受験資格

①日本国籍を有する者。

②地方公務員法第16条（欠格事項）に該当しない者。

③年齢資格等

昭和58年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた者。（学歴は問いません）

●試験の方法

高校卒業程度で次により行います。

(1) **第1次試験**

①教養試験（英語出題無）

職員として必要な一般知識及び知能について、択一式による筆記試験を行います。

(2) **第2次試験**

第1次試験合格者に対して、作文及び個別面接による試験を行います。

●試験の期日・場所

(1) **第1次試験**

①期日

平成25年2月3日（日）

②受付時間

8時30分～9時00分

③教養試験

9時30分～11時00分

④試験場所

南会津地方環境衛生組合

(2) **第2次試験**

第1次試験合格者に対して別途通知します。

●受験手続及び受付期間

申込用紙は組合で交付しますので、必要事項を記入のうえ、提出してください。

受付は平成25年1月25日（金）まで。（執務時間中に限ります）

郵便の場合も、同年1月25日（金）必着です。

●その他

この試験に関し不明な点は、本組合総務課にお問い合わせください。

▼問い合わせ

〒969－5343

南会津地方環境衛生組合

総務課総務係（南会津郡下郷町落合字下川原1388－1）

☎0241－67－2480

テクノアカデミー会津 職業能力開発短期大学校入学試験

福島県では、喜多方市にあるテクノアカデミー会津職業能力開発短期大学校・観光プロデュース学科の25年度生を募集しています。同校は、福島県の観光産業を担う若い人材を育成しています。少人数制のきめ細かな指導により、毎年の就職率は100％の実績を収めています。

詳しくは同校ホームページをご覧いただくか、又は電話でお問い合わせください。

●募集学科及び人数

観光プロデュース学科16名

●入学試験日程

①出願期間

1月28日（月）～2月4日（月）

②試験日　2月8日（金）

③合格発表　2月15日（金）

▼問い合わせ

テクノアカデミー会津

☎0241－27－3221

ホームページ

http://www.tc-aizu.ac.jp/

生活 LIFE

ふくしま心のケアセンター 福島県精神保健福祉協会

ふくしま心のケアセンターは、平成24年11月19日より電話相談専用ダイヤルを開設しました。

東日本大震災や津波、原発事故による被災とその後のストレスにより、悩みを抱えている方々や、その支援をされている方々からのご相談をお受けしております。

●被災者相談ダイヤル

「ふくここライン」

☎024－531－6522

平日　午前　9時～正午

　　　午後　1時～5時

※専門の相談員がお受けします。

▼問い合わせ

電話相談専用ダイヤル担当者

ふくしま心のケアセンター

壬生明日香（みぶあすか）

☎024－535－8639

電子メール

asuka_mibu@kokoro-fukushima.org

電話番号

総務企画課	
総務班	☎82－5050
	☎82－5210
企画班	☎82－5220
町民生活課	
税務班	☎82－5110
町民班	☎82－5100
保健福祉課	
保健班	☎84－7005
福祉班	☎84－7010
産業振興課	
農林班	☎82－5230
交流推進班	☎82－5240
環境整備課	
地域整備班	☎82－5270
生活環境班	☎82－5280
会計室	☎82－5120
議会事務局	☎82－5300
農業委員会	☎82－5230
教育委員会	☎82－5320
学校給食センター	☎84－7180
只見保育所	☎82－2219
朝日保育所	☎84－2038
明和保育所	☎86－2249
朝日診療所	☎84－2221
（歯科）	☎84－2612
訪問看護ステーション	☎84－2130
こぶし苑	☎84－2101
保健福祉センター	☎84－7005
只見地区センター	☎82－2141
朝日地区センター	☎84－2111
明和地区センター	☎86－2111

税 今月の納期

1月25日までに納めましょう

●町県民税（4期）

●固定資産税（4期）

●農集排使用料（1月分）

●後期高齢者医療保険料（6期）

「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会の開催

平成24年度町研究助成金により只見町の自然について研究された研究者から、研究成果を発表していただきます。発表者および発表内容は次のとおりです。町民の皆さんの参加をお待ちしております。

○と　き　平成25年1月20日(日)　午後1時～午後3時半
○ところ　朝日地区センター　2階ホール
○内　容　調査研究の成果を講演･解説していただきます。時間は1名30分程度です。

（1）「伊南川における大規模河川撹乱（平成23年7月新潟・福島豪雨）が山地河畔林に与えた影響」
新国可奈子さん
新潟大学大学院環境科学専攻流域環境学コース

（2）「只見の山地渓流沿いに見られる森林の構造」
斉藤真人さん
横浜国立大学大学院環境情報学府修士課程

（3）「ブナが育つのはどのような場所か～今年度発芽したブナ実生の運命とは～」
宮下彩奈さん
東京大学大学院理学系研究科付属日光植物園

（4）「ヒメサユリはなぜ只見に生育するのか？」
河原崎里子さん　首都大学東京理工学研究科

○発表会参加費　無料です。

発表者との懇親会

○と　き　1月20日(日)　午後6時～午後8時
○ところ　旅館みな川（住所：只見町只見字田中1300－3）
○参加費　4,000円（1名）
○申込み　1月15日(火)　午後5時までに総務企画課企画班（TEL0241－82－5220）まで電話でお申し込みください。

【問い合わせ】
只見町総務企画課　企画班
電　話：０２４１－８２－５２２０
メール：kikaku@town.tadami.lg.jp

「出前書き方説明会・相談会」お申し込みについて

福島県と県立医科大学では、「県民健康管理調査　基本調査問診票」に関する出前書き方説明会および相談会を皆様のご要望に応じて開催します。開催日時は、土・日・祝祭日を除く午前９時から午後４時までの間で、１回当たり10名～15名までの相談が可能です。

お申し込み、お問い合わせは、県立医科大学県民健康管理センターまでご連絡ください。

福島県立医科大学　県民健康管理センター
電　話　０２４－５４７－１７８６

みなさんのご来場をお待ちしています！

町長室日誌

〈　12　月　分　〉

１日　まるごと南会津観光ＰＲフェア
３日　東北農政局長と会津地域市町村長懇談会
４日　県町村会監事会
５日　派遣職員辞令交付式、環境衛生組合管理者会、広域圏組合管理者会、南会津町村会町村長会議、南会津会評議員会、南会津会理事会
６日　12月補正町長査定
７日　滝調整池堆砂対策連絡協議会
10日　奥会津5町村活性化協議会役員会
11日　議案検討庁議、高齢者お楽しみ会
12日　固定資産評価委員会、一般質問検討庁議
13日　季の郷湯ら里取締役会
14日　雪むすめ委嘱状交付式、新嘗祭献納式報告会
17日　町長就任式
18日　只見町議会12月会議（～21日）
21日　只見スキー場オープン式
22日　渡部恒三先生感謝の集い
25日　只見川豪雨災害復興協議会
27日　只見川ライン観光協議会懇談会
28日　仕事納め式、環境衛生組合仕事納め式

町民の消息

（12月1日～12月31日届出分・敬称略）

■お誕生おめでとうございます

渡部	美礼（みれい）	（女／隆義・美香）	大倉
五十嵐	茉羽那（まはな）	（女／康幸・紀代美）	只見

■おくやみ申し上げます

須佐 伸	78歳	八木沢
三瓶 平和	71歳	只見
森本 タマイ	91歳	長浜
馬場 みや	90歳	梁取
石谷 ヤチヨ	95歳	長浜
吉津 秀子	103歳	長浜
菅家 強生	35歳	黒谷
渡部 絢子	86歳	福井

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成24年12月1日現在

人口	4，780（－6）
男	2，306（＋1）
女	2，474（－7）
世帯数	1，843（－2）
高齢化率	41．3％

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 7　転出 7　出生 1　死亡 7

あとがき

▽新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。今年一年が町民の皆様、只見町そして町に関係される皆様にとって輝かしい一年でありますことをお祈りいたします。▽今年は例年にも増して寒さの厳しい冬になり、昨年12月初旬の寒波で只見も大雪に見舞われました。1月に入っても雪の降る日が続き積雪も多くなっています。皆さん、除雪作業は気をつけて行いましょう。▽雪まつりは2月9日と10日です。楽しいイベントが今年も盛りだくさん、雪むすめも待っています。必ず来てくださいね。

まちづくり推進員
若林　奈津子

朝日地区センター
図書室☎84－2059

おすすめ新着図書

★海賊とよばれた男　上・下

百田尚樹／著　（講談社）

「永遠の０」など時代小説の人気作家百田尚樹さんの最新作です。歴史小説と言っても戦後のことであり、実在する実業家の半生を題材に大きな志、信念が圧倒的な勢いで読み手の感情をゆさぶり、読後も熱い思いが持続し、読書の楽しさを改めて感じさせてもらえる作品です。上下巻で長編ですが、若い人にもぜひ読んでもらいたい本です。

★お料理上手と思われる 持ちより＆さし入れレシピ

馬場香織／著
（メディアファクトリー）

手ごろな食材を使い、見た目が華やかでおいしそうなレシピが、持ちよりのアイデアの写真とともに紹介されています。主食・サラダ・メイン・スープ・デザート、作り方も簡単で全てのレシピが３つくらいの工程です。クリスマスやお正月などのイベントにも活躍しそうです。

★ぼくがきょうりゅうだったとき

まつおかたつひで／さく
（ポプラ社）

誕生日に恐竜の着ぐるみパジャマが届いたぼく。恐竜のパジャマを着て、公園に出かけると、本物の恐竜が「ぼくたちの世界へ遊びにおいでよ！」と誘います。恐竜のパジャマで、恐竜の世界を体験します。草食恐竜・肉食恐竜たくさんの恐竜たちを前に、ぼくは助かることができるのか？

★朝日地区センターでは、来年のNHK大河ドラマの題材となった、新島八重や会津歴史関連の本をたくさん取りそろえました。ぜひご利用ください。

町民憲章

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

森の四季 Vol.33

只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

雪食地形とモザイク植生

只見町は、ほぼ全域が標高1,000㍍前後の山地帯で、そこにはブナを代表とする冷温帯落葉広葉樹林が広がっています。この山地帯は、冬季の豪雪と比較的もろい緑色凝灰岩（グリーンタフ）を基岩とする地質的な特徴のために、斜面が雪崩で削り取られ、基岩が露呈し、急峻で複雑な「雪食地形」が形成されています。さらには、こうして形成された急峻な地形と複雑な立地環境の上に、それぞれに適応した植物群集が生育し、植生がモザイク状に配置されています（写真1）。尾根部には筋状に並ぶキタゴヨウの針葉樹林、雪崩斜面にはミヤマナラやマルバマンサクなどの低木林、斜面下部の雪崩によって岩屑や土壌が堆積し比較的安定した立地にはブナ林、沢沿いにはサワグルミやトチノキの渓畔林が成立しています。こうした景観は、標高1,000㍍以下の山地帯では極めて珍しく、そのほとんどが原生的な状態で、広大な面積にわたって存在しているのが只見町の森林植生最大の特徴です。この大自然は他地域にはない（写真2）、只見町のとても貴重な財産なのです。

写真1

只見町伊南川左岸の山地帯に発達する雪食地形とモザイク植生（小川集落より望む）

写真2

南会津町伊南川左岸の山地帯（南会津町界より望む）

企画展示

○「只見の巨樹・巨木」展
只見町の巨樹や巨木をパネル展示で紹介いたします。
期　間：１月５日（土）～４月15日（月）

ブナセンター講座

○「只見で出会った巨木たち」
講　師：刈屋 寿さん（弥彦山脈植物友の会会長）
日　時：１月19日（土）　午後１時30分～午後３時

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

第41回只見ふるさとの雪まつり
私たちが「雪むすめ」です…

第41回只見ふるさとの雪まつりを盛り上げてくれる「雪むすめ」２名が決定し、併せて昨年の雪まつりからＰＲのお手伝いをしているツイート雪むすめ「ケバブちゃん」に目黒町長から12月14日、委嘱状が手渡されました。

今年の「雪むすめ」は「佐藤麻世さん（大倉）」と「馬場美里さん（大倉）」です。二人とも「皆さんに雪まつりを楽しんでいただけるよう、そして只見町の魅力を伝えられるよう頑張ります」と笑顔で話しました。よろしくお願いします。

右から「佐藤麻世さん」、「馬場美里さん」、「ケバブちゃん」

■ 発行／只見町役場総務企画課　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字雨堤1039
■ 編集／広報編集委員会　http://www.tadami.gr.jp/　☎0241(82)5210